

再生可能エネルギーってなに？

再生可能エネルギー(再エネ)とは、自然界に存在し、繰り返し利用できるエネルギーのことです。代表的な再生可能エネルギーは、**太陽光**、**風力**、**地熱**、**水力**、**バイオマス**などです。近年、くらしの中で欠かすことのできない電気や熱を再生可能エネルギーから作り出し、利用する取り組みが広がっています。



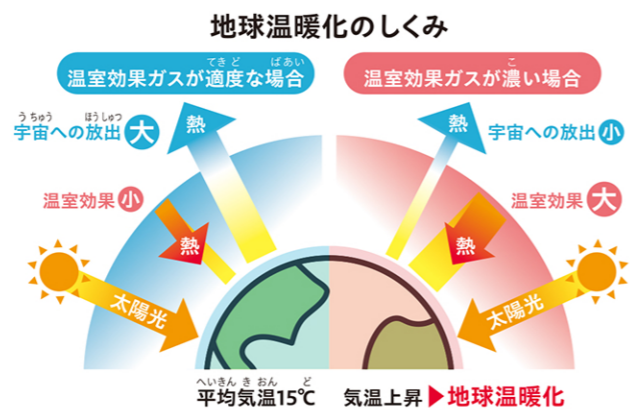
どうして再生可能エネルギーを使うの？

1 これ以上の地球温暖化を防ぐため

地球では今、温暖化が進んでおり、その影響で、猛暑や豪雨などといった異常気象の増加や、海面上昇など、さまざまな問題が起きています。

地球温暖化の原因のひとつが、電気などを作るために石油や石炭、天然ガス(化石燃料)を燃やすことによって発生する二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスです。

再エネを使うと、CO₂をほとんど出さずに電気を作ることができるため、地球温暖化の防止につながります。



2 安定的にエネルギーを得るため

日本は、発電に使う化石燃料の多くを国外から輸入していますが、紛争などの世界情勢や自然災害などによって輸入できなくなったり、価格が上がり安定して発電できなくなったりするおそれがあります。

国内で作り出すことができる再エネを広めることで、安定的に電気や熱を供給することができます。

3 災害に強い社会を作るため

自宅や避難所に再エネ発電設備や蓄電池が設置されていれば、地震や台風などで停電しても電気やお湯を使うことができます。

エネルギーを作って、自分たちで使う取り組み(地産地消)によって、災害に強いまちづくりが進みます。



再生可能エネルギーはどう使うの？

再エネで発電した電気は、家の中を暖かくしたり、学校の教室を明るく照らしたりと、日々使われています。さらに、再エネをもっと上手に使うには、こんな方法があります。



【蓄電池に電気を貯めて使う】

蓄電池とは、電気を貯めておける機械です。例えば太陽光発電は、太陽が出ている昼間しか電気を作ることができませんが、発電した電気を蓄電池に貯めておくことで、夜や停電しているときにもその電気を使うことができます。



【電気自動車(EV)に使う】

普通の自動車はガソリンを燃やして走っていますが、EVは電気でモーターを回して走っています。走行時にCO₂を出さず、さらに貯めた電気は非常時に家庭などで使うこともできます。

再エネで発電した電気を充電して走行すれば、CO₂を削減できます。

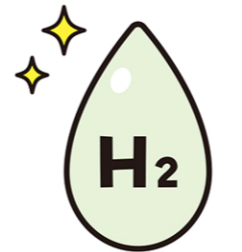


【水素エネルギーに変えて使う】

水素は地球上に存在する一番小さい元素で、水などの形でたくさん存在しています。水素と酸素を化学反応させたり、水素を直接燃やしたりしてエネルギーを生み出すことができますが、水素は使うときにCO₂を出さないの、とてもクリーンなエネルギーといえます。再エネで作った電気で水を分解しても水素を作ることができますが、この方法だと、作る時にも使う時にもCO₂を出しません。

水素エネルギーの活用方法としては、水素を使って走る車「FCV」があります。FCVは、水素と酸素を化学反応させて電気を作り、その電気でモーターを回して走る車です。県内では、FCVのバスやタクシーも走っています。探してみてくださいね!

※FCV=Fuel Cell Vehicle(燃料電池自動車)



次のページからは、再生可能エネルギーについてより詳しく説明します!